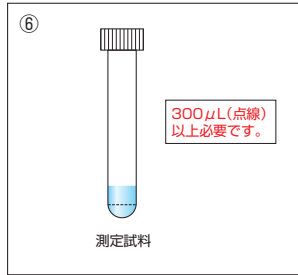
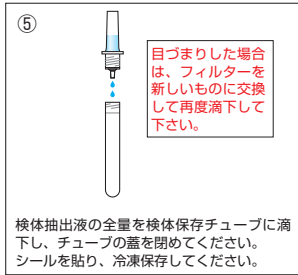
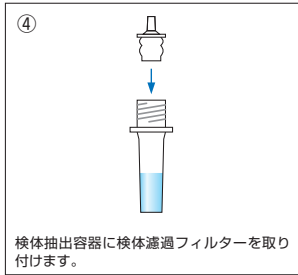
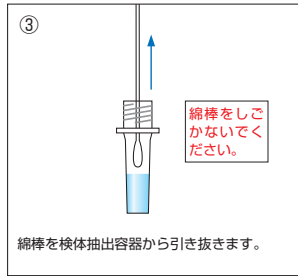
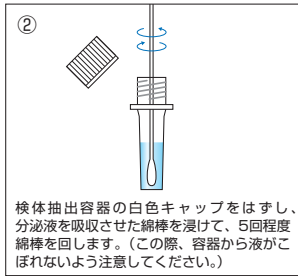
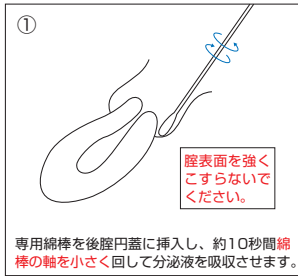


癌胎児性フィブロネクチン検査の検体採取方法



●ご注意

- 必ず専用の採取器具を用い、抽出・濾過検体にてご提出下さい。
- 検体の採取は腔洗浄前に行ってください。
- 検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないで下さい。
- 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ検査の検体採取方法

<p>正しい採取部位</p>	<p>子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。</p>	<p>●注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子宮頸管部より採取して下さい。 2) 検体採取は腔部洗浄前に行ってください。 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔できるように挿入して下さい。 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにして下さい。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いて下さい。
	<p>綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)</p>	
<p>綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)</p>		<p>5) 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。</p> <p>[ご注意] 検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので十分ご注意ください。</p>

抽出方法

<p>①</p>	<p>抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。</p>	<p>②</p>	<p>頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。</p>	<p>③</p>	<p>綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。</p>
<p>④</p>	<p>フィルターをセットします。</p>	<p>⑤</p>	<p>検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300 µL)を分取します。必要量が得られない場合は検体採取からやり直して下さい。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、冷凍(-15℃以下)で3ヶ月以内に測定して下さい。</p>		